障がい者の自立支援から地域の減災力を高める「CILたすけっと」

東日本大震災以降、市内では、さまざまな主体が防災・減災活動に取り組んでいます。障がいのある人も暮らしやすい社会の実現を目指す活動をしている団体「CILたすけっと」を取材しました。

▲震災直後から、必要な支援について訪問して調査を行う杉山さんたち

▶「CILたすけっと」のメンバーの皆さん。震災直後は、事務所で共同生活も

自立生活センター「CILたすけっと」は、重い障がいがあっても地域で自立した生活がしたいと思う方が集まり、当事者が中心となって運営している団体です。太白区長町の事務所を拠点に、同じように地域で生活したいと思っている障がいのある方に対してヘルパー等の介助者を派遣するほか、被災した障がい者への支援活動や、防災・減災に関する活動を障がい者の視点で行っています。

「東日本大震災の直後は車椅子のメンバーも避難所に行きましたが、避難所には車椅子で生活できるスペースがなかったため、数日間はたすけっとの事務所で共同生活をしました」と教えてくれたのは、事務局長の杉山裕信さんです。「障がいのある人が安心して避難できる福祉避難所などがもっと充実するよう、活動していきたいですね」。

杉山さんたちは、まずは地域の人に自分たちのことを分かってもらうことが大切だという考えから、地元商店街の組合に加入して共に活動するなど、普段から地域との関わりを大切にしてきました。

▲事務局長の杉山裕信さん

「震災時には、日頃からの人と人とのつながりの重要性を感じました。長町の商店街の皆さんには発電機を貸していただいたり食料を提供していただいたりしましたし、全国各地の自立生活センターとのネットワークにも助けられました」と杉山さん。

今後は、震災直後に十分な人手が確保できず苦労したという経験から、災害時等にも自分たちの活動ができるよう、事業継続計画（BCP）の福祉版の作成にも取り組んでいきたいと意欲的に語ってくれました。

問い合わせ
防災環境都市推進室
☎214・8098
FAX214・8497

ごみ減量・分別の豆知識

缶・びん・ペットボトル等の出し方

WAKE UP!! ワケアップ！仙台

飲料の消費が増える夏に向けて、排出量も増加する缶・びん・ペットボトル。ごみ集積所の回収容器にはそれぞれの種類に分けずに混ぜて出すのが正解です。また、袋に入れたままのものがあると、選別の妨げになるので袋には入れずに出してください。

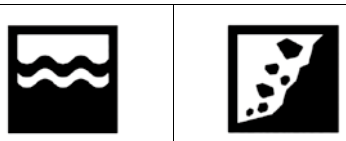
ペットボトルを出す際は、①フタを外す②ラベルをはがす③中をすすぐ④つぶす、の4つのポイントが重要です。

問家庭ごみ減量課☎214・8229、FAX214・8277

知って役立つ！　ワンポイント防災講座

ピクトグラムってご存知ですか？

ピクトグラムとは、情報を分かりやすく伝えるための絵文字のこと。市では市内の指定緊急避難場所（指定避難所・地域避難場所・広域避難場所）に設置している標識看板に、どんな災害の時にその避難場所を使用できるのかを、新たにピクトグラムと文字で追加表示しました。万が一の場合に備えて、近くの避難場所の看板を確認してみてください。



洪水 Flood from rivers 2階以上	がけ崩れ・地すべり Steep slope failure, landslide

ピクトグラムの例

問防災計画課☎214・3047、FAX214・8096